



オネゲルとスナール(2)

～ピアノ曲集《ロマンドの音楽帖》を中心に～

近藤秀樹

2019年6月2日(日) 11:00
南葵音楽文庫閲覧室(和歌山県立図書館内)

南葵音楽文庫
和歌山県立図書館内
和歌山市西高松 1-7-38
tel.073-436-9500



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Arthur_Honegger_1921.jpg

1. オネゲルとスナール社 [おさらい]

- アルテュール・オネゲル (Arthur Honegger 1892-1955)
スイス国籍、フランスで活躍。フランス六人組の一翼を担う。
5曲の交響曲や《パシフィック 231》等の管弦楽曲によって知られる。
オラトリオ、バレエ、室内楽曲等にも充実した作品を残す。
ex. 《ダビデ王》《火刑台上のジャンヌ・ダルク》《クリスマス・カンタータ》 etc.
晩年は、第二次大戦、米ソ対立等により、人類と音楽文化の未来を悲観。
Cf. 『私は作曲家である』(音楽評論家ガヴォティとの対談を本にしたもの)

- オネゲルとスナール社
オネゲルの作品の多くはスナール社より刊行。
スナール室内楽シリーズにも、多数のオネゲルの作品が含まれる。
フランスの音楽雑誌『ルヴュ・ミュージカル』でさかんに広告。看板作曲家?

Piano		Chant et piano	
<i>Le cahier romand</i>	1923-2	<i>Trois poemes</i>	1922-2
<i>Chant de Joie</i>	1924-2	<i>Six poesies</i>	1924-1
<i>Pacific 231</i>	1926-1	<i>Judith</i>	1925-2
<i>La neige sur Rome</i>	1927	<i>Trois chansons</i>	1927-1
Violon et piano		Ensemble	
<i>Deuxieme Sonate</i>	1924-2	<i>Rhapsodie</i>	1923-1

・音楽雑誌『ルヴュ・ミュージカル』 *La Revue Musicale* とオネゲル

1922年1月号に、ルネ・シャリュ (René Chalupt 1885-1957) がオネゲル論を執筆。
同号には、付録としてオネゲルの作品二篇が掲載される。

- 1) 《ピアノのための小品》
- 2) 歌曲《森の中で道に迷った狩人》(ポール・フォール詩)

この二曲は、のちにスナール室内楽シリーズとして出版。

- 1) ピアノ曲集《ロマンドの音楽帖》 *Le Cahier Romand* (1923年第2期: ピアノ曲編)
- 2) 歌曲集《ポール・フォールの3つの詩》 *Trois Poèmes de Paul Fort*
(1922年第2期: 歌曲編)

2. オネゲル《ロマンドの音楽帖》 *Le Cahier Romand*

ピアノ小品集。全5曲。1921年から23年にかけて作曲。

ロマンド romand(e): スイスのフランス語圏。各曲はロマンド地方の友人に献呈。

初演: 独立音楽協会のコンサートで。

演奏はアンドレ・ヴォラブール (Andrée Vaurabourg 1894-1980)。

のちのオネゲル夫人。オネゲルの他のピアノ曲、ピアノ協奏曲も初演。



ヴァイオリンを持っているのがヴォラブール。その右がオネゲル。ピアノの前に坐っているのはコクトー。
<https://en.expertissim.com/cocteau-jean-1889-1963-with-arthur-honegger-andree-vaurabourg-12150318>

ロマンドの音楽帖 *Le Cahier Romand*

- 第1曲 Calme (A Alice ECOFFEY) Zurich, Septembre 1921
- 第2曲 Un peu animé (A Jacqueline ANSERMET) Paris, Juillet 1923
- 第3曲 Calme et doux (A Miquette WAGNER-RIEDER) Zurich, Juillet 1921
- 第4曲 Rythmé (Paul BŒPPLE) Paris, Juin 1923
- 第5曲 Egale (A René MORAX) Paris, Avril 1922

3. オネゲルとアンセルメ

《ロマンドの音楽帖》第2曲

- 被献呈者: ジャックリーヌ・アンセルメ (Jacqueline Ansermet)
スイスの指揮者エルネスト・アンセルメの娘、
アンヌ=ジャックリーヌ (Anne-Jacqueline Ansermet 1907-?)と思われる。
- エルネスト・アンセルメ (Ernest Ansermet 1883-1969)
1918年にスイス・ロマンド管弦楽団を創立。50年にわたって音楽監督をつとめる。
1915~24年、バレエ・リュッスで数多くの新作バレエを初演。
《ラグビー》(1928年)をはじめ、オネゲルの作品も数多く初演。
《パシフィック 231》(1923年)はアンセルメに献呈。



左から、オネゲル、アンセルメ、ロラン=マニユエル。1925年撮影。ロラン・マニユエル(Roland-Manuel 1891-1966)は作曲家、音楽評論家で、スナール室内学シリーズの「付録論考」(1924年第2期)にオネゲル論を執筆している。
<https://notrehistoire.ch/entries/0lyYKOR0Ynw>

4. オネゲルとモラ

《ロマンドの音楽帖》第5曲

- サティの影響? (Guy Sacre の指摘)
- 被献呈者: ルネ・モラ (René Morax 1873-1963)

オネゲルの《ダビデ王》*Le Roi David*

オネゲルの出世作。

スイス・ローザンヌ地方のジョラ劇場で上演される宗教劇の伴奏音楽として書かれた。

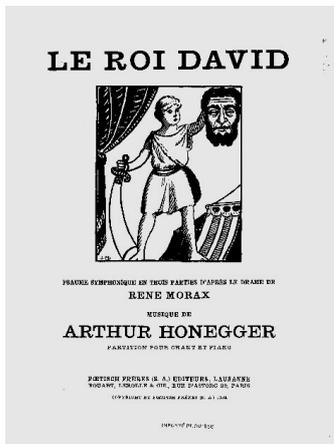
*オネゲルをこの劇の音楽担当に推薦したのはアンセルメ。

台本はルネ・モラ。弟の画家ジャン・モラが舞台装置と衣装を担当。

1921年6月11日に初演。

1923年にオラトリオ形式へと再構成。通常の編成の管弦楽のために編曲が行われる。

オラトリオ版の楽譜はローザンヌの出版社 Fœtisch Frères から出版。



◀ オネゲル《ダビデ王》楽譜の表紙。

オネゲルとモラ

1. 宗教劇《ユディット》(*Judith*)

台本: ルネ・モラ。音楽: オネゲル。

ジョラ劇場で、1925年6月13日に初演。[→今年9月のミニレク]

楽譜はスナール社から刊行。

2. 人形劇《アンデルセンの「人魚姫」》(1926年)

台本: ルネ・モラ。原作はアンデルセン。オネゲルは三つの歌(劇中歌?)を作曲。

編成: ソプラノ、フルート、弦楽四重奏。ピアノ伴奏版も作られた。

3つの唄	<i>Trois chansons</i>
《アンデルセンの「人魚姫」》より	Extraits de “LA PETITE SIRÈNE” d’Andersen
1. 人魚たちの唄	I. Chanson des Sirènes
2. 人魚の子守唄	II. Berceuse de la Sirène
3. 梨の唄	III. Chanson de la Poire

1927年に、ピアノ伴奏版が、スナール室内楽シリーズ・声楽曲編の一環として出版された。 [p.1 の表を参照]

代わりに オネゲルのピアノ曲と舞台音楽

○主要参考文献

アルテュール・オネゲル『私は作曲家である』吉田秀和訳、音楽之友社、1970年
 ジャック・フェショット『オネゲル』天羽均訳、音楽之友社、1971年。

Guy Sacre: *La Musique de Piano, Dictionnaire des compositeurs et des œuvres*, Robert Laffont, Paris, 1998.